



1

1 「ハラへった!」と言うケンに、昭平が「ほんとうに日本語うまいなあ」と驚いていることに着目する。

2 外国人の血を引くケンのことを、「ほんとうに日本語うまいなあ」「やっぱりガイジンは野蛮だよなっ!」と皆が言っている点に着目する。

3 「昭平は正直に感じたことを言っただけなのだ」とあるので、昭平の言った内容を探せばよい。

2

1 線部①のあとに「ダツシュ、ダツシュと緒方先生の声が背中をおす」とある。これと同じように緒方先生の会話の中で、練習にはげむように「背中をおす」言葉をさがす。

2 線部②の次の二つの段落「しようがないく口の中に血のにおいが広がった。」に遠子の気持ちが表れている。

3 「とあきらめてしまえる」が続くので、あきらめるときに言うのにふさわしい表現を、十二字という字数をヒントに探す。

4 「大会が終われば、すぐにハードルをやめるつもりだった」とあるように、遠子はハードル自体を好きになったわけではない。「けりをつける」とは、決着をつけることである。

5 I 直後に「言いたいのと言えなかった」とあるので、遠子は何を言おうとしていたのかを探す。
II 爪のあとが残っていたわけだから相当強くこぶしをにぎっていたことがわかる。——線部④の前の部分で、遠子は自分の気持ちを言う前に、「この話はここまでにしよう」と先生に言われている。



チャレンジ6

話し合い

1 「昔から伝わるもの」と似た表現を、〈話し合いの様子〉から探す。

2 Bの山口君の発言の後、日向焼の花びんを割った話に話題がそれそうになったことに着目する。また、他の三点の工夫は、〈話し合いの様子〉のどこに該当するのか考えるとよい。